

研究室紹介



(地独)北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部
エネルギー・環境・地質研究所 環境保全部

● 研究所の変遷

私たちの研究所の始まりは公害問題が顕在化してきた1965年に、北海道立衛生研究所に公害科が設置されたときに遡ります。その後、1970年に大気部、水質部を持つ北海道公害防止研究所が設置されました。1991年に自然環境部を加え、環境保全部、環境科学部の3部で北海道環境科学研究センターに改組し、2010年に地方独立行政法人化により、北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 環境科学研究センターとなりました。2020年に環境科学研究センター、工業試験場 環境エネルギー部、地質研究所が統合し、現在のエネルギー・環境・地質研究所が発足し、環境保全部は循環資源部と環境保全部に分かれました。

環境保全部は「北海道の「大気-森-川-海」を守り、活かす！」を目標に、水環境、気候変動や酸性雨などの研究を主に担当する水環境保全グループと大気環境、化学物質対策などを担当するリスク管理グループで研究を進めています。
 (北海道東北支部長 野口 泉)

● 水環境保全グループ

空から海までの水の把握を目的として、雨から海水までを調査対象としています。雨については利尻と札幌で降水を捕集し、酸性度や窒素沈着量などについて長期のデータ蓄積と解析を進めています。加えて、北海道の全積雪中の大気汚染物質量を把握する調査を概ね4年に一度行っています。1988年に開始し、今年、9回目の調査を行いました。2-3月の雪が多い時期に北海道中を移動しながら、雪を採取し、現在、解析を進めています。

最近では気候変動に関する取組みを強化しており、気候変動が北海道全体へもたらす影響について、特に雪を中心に国立環境研究所、北大等と共同研究を進めています。(環境研究総合推進費2-2009) また、北海道の気候変動が北海道の主要産業である観光に与える影響についても調査研究を進めています。
 (支部監事 山口高志)

● リスク管理グループ

人の健康や生態系を脅かす様々な環境リスクの管理、低減に関する研究を実施しています。広い北海道をフィールドとしたPM_{2.5}など大気環境汚染物質の長期モニタリングや成分分析による発生源寄与解析など広域な大気環境研究をはじめ、ダイオキシン類、PCB、農薬などの化学物質や環境汚染物質のリスク評価などに取り組んでいます。また、バイオマスの燃焼利用など新たな技術開発に伴う環境適合性の確認や排ガス中のダスト濃度自動計測器の性能評価方法のJIS化など、大気発生源の排出抑制に関する研究開発にも取り組んでいます。
 (支部幹事 芥川智子)



積雪調査 (2021.2 札幌市郊外にて)



気候変動研究の共同研究者と共に



2018.4.27 8:30
 PM_{2.5} : 24μg/m³

4時間後

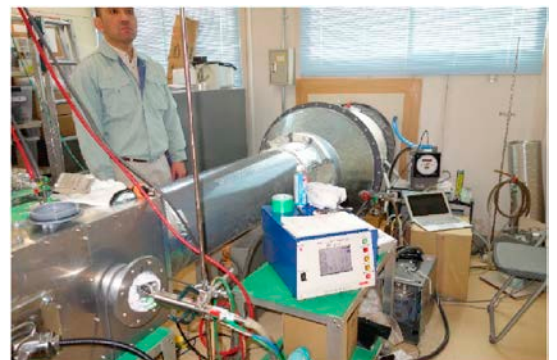


2018.4.27 12:30
 PM_{2.5} : 112μg/m³

2018年4月の札幌市のPM_{2.5}高濃度事例



環境保全部+学会員の集合写真



排ガス中のダスト濃度自動計測器の性能評価試験 (JIS B 7996, 7997)